

アナログオーディオ&ゆとりライフマガジン

令和4年2月15日発行(年4回刊) 第18巻第2号通巻74号 ISSN1349-595X

季刊・アナログ

# analog

2022  
WINTER  
vol. 74

Phile  
web

音を決定づける重要アイテム

## 現代フォノイコライザー

*Contemporary Phono EQ*

40 モデル  
徹底試聴



カウンターポイント  
SA-5000内蔵EQと  
単体EQを比較検証!

カリスマエンジニア  
“かないまる”発案  
カートリッジの  
「消磁」レシピ

LP全盛時代の優秀録音盤

お宝レコード

*Special*

# audio-technica AT-PEQ30

¥24,200(税込)

MM	MC	バランス入力	バランス出力
EQカーブ可変	負荷抵抗調整	負荷容量調整	ステレオ/モノ切替

●イコライザー回路:NF型●MC増幅:ヘッドアンプ方式●入力インピーダンス:MM 47kΩ, MC 120Ω●ゲイン:MM 35dB, MC 59dB●SN比:MM 100dB, MC 74dB●RIIA偏差(20Hz~20kHz):MM ±0.5dB, MC ±0.5dB●電源:ACアダプター●サイズ:197.5W×47H×125.5Dmm●質量:約890g●取り扱い:(株)オーディオテクニカ

## 本機で できること

重量1kgを切る本体は小さく、オーディオラックの裏の隙間などにも収まりそう。試聴時にハムノイズ等もまったく出ず、設置は比較的楽そうだ。MM/MCの切り換えは前面のスイッチ。MMポジションの音がよく、私だったら同社のVM型と組み合わせて使ってみたい。ACアダプターは15V。



## ●本機の音質を聴く(小原) がっちりとした 威勢のいいサウンド

コンパクトなサイズながらも、アルミ削り出しのフロントパネルと金メッキ入出力端子を採用したモデル。シャーシを金属製とすることで、耐ノイズ性能を高めている。フォノイコライザー回路も、FET入力/NF型という本格派だ。

総じてがっちりとした威勢のいいサウンドが聴ける。特にMMが好ましく感じられ、張り出した中域がヴォーカル音像をくつきりと再現。ステイリー・ダンではビートがタイトに決まっていた。ギターソロも伸びやかで切れがある。

MCではややこぢんまりとしたステレオイメージだが、上原ひろみの演奏の弦楽隊のアコースティックな響きがナチュラルで瑞々しい。リズムを刻むチェロの音が骨太に出た。メル・トウーメではしっとりとした歌声が柔らかに描写され、ピアノの音色もまろやか。価格を考慮すれば、バランスよくまとまっていると思う。コストパフォーマンスは高い。

# CREEK OBH-8mk2

¥33,000(税込)

MM	MC	バランス入力	バランス出力
EQカーブ可変	負荷抵抗調整	負荷容量調整	ステレオ/モノ切替

●歪み+ノイズ/2Vrms:<0.003%、1~10kHz●チャンネルセパレーション:>70dB●周波数特性:10Hz~100kHz(±0.5dB)●SN比:>76dB●オーバーロードマージン:>-21dB●出力:6.1V RMS Max●出力インピーダンス:100Ω●ゲイン:40dB●適合抵抗ならびにキャパシタンス:47kΩ, 220pF●消費電力:3W●電源:OBH-UNI(ACアダプター)●サイズ:100W×48H×80Dmm●質量:400g(OBH-UNIを含む)●取り扱い:(株)ハイファイジャパン

## 本機で できること

筐体としてこれ以上小さくできないというくらい(入出力端子の取っ掛けスペースがなくなる)コンパクトにまとめられている。電源スイッチのみのMM専用機だから、ラックの裏側の隅の方に電源入れっぱなしで置いてもいいだろう。

ACアダプターは24V。



## ●本機の音質を聴く(小原) 周波数レンジと Dレンジの広さが印象的

今回の試聴モデル中、最もコンパクトなMM専用機。表面実装の抵抗やICを使用しつつ、独WIMA製ポリプロピレンコンデンサーなど、定評のあるパーツを採用している点も見逃せない。アンプはAクラス増幅。

周波数レンジとダイナミックレンジの広さが印象的なモデル。あるいはMCカートリッジを意識した分解能とS/N重視の音づくりなのかもしれない。オーディオテクニカAT-VMS540MLが、こんなに精巧なサウンドを奏でたことに驚いたほどだ。

メル・トウーメは声が艶やかで包容力がある。ステレオイメージも広く、ライブ会場の臨場感が伝わる。ステイリー・ダンでは、ヴォーカルはもちろん、アンサンブルから浮かび上がるソロ楽器の定位が克明。リズムも安定していた。上原ひろみではピアノと弦楽隊の距離感がしっくり再現されており、チェロの存在感、ピアノの左手のキーの重たさがしっくりと出た。